

平成19年度つどいの広場研修事業  
「子育てひろば研修セミナー」〈仙台開催〉の写真報告  
子育てひろば立ち上げ支援セミナー  
テーマ

親子が出会い育つ地域の子育て支援拠点をつくるために

---

---

11月10日と11日の2日間にわたって「子育てひろば立ち上げ支援セミナー〈仙台開催〉」が行われました。これからひろばを立ち上げたいと考えている、あるいは立ち上げてまもない人や団体を対象に実施し、北海道から東京都まで両日でのべ221人の方にご参加いただき、ひろばを運営していくソフト（マインド）とハード（制度・設備など）について、情報交換をしながら、考え学びました。

参加者からは「ひろばの役割を、初歩的なことから、本来あるべき姿、問題点など含めて、大変分かりやすくとても勉強になりました。」という感想をいただきました。

ご参加して下さったみなさま、ありがとうございました。

---

---

### 実施概要

- 開催日◆ 平成19年11月10日(土) 13:00～16:40  
11月11日(日) 9:30～12:15
- 会場◆ハーネル仙台
- 主催◆財団法人こども未来財団
- 共催◆NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援◆厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・宮城県・仙台市・  
(社福)宮城県社会福祉協議会・(社福)仙台市社会福祉協議会・  
河北新報社
- 協力◆NPO法人やまがた育児サークルランド
- 参加人数  
151名(男性17名・女性134名)  
(行政45名・NPO任意団体73名・その他団体／企業／一般7名・その他26名)  
※2日間延べ人数221名

### 開会挨拶



主催の財団法人こども未来財団 研修事業部の佐藤よこいさん

■プログラム1 基調講演 テーマ「子育て支援拠点に求められる役割や機能について」

【講師】日本福祉大学教授

渡辺顕一郎さん



ひろばの形態は違っていても共通しているのは、

- ・乳幼児の親子が気軽に集え、さまざまな年代との交流の場であること
- ・利用者同士はもちろん、地域や各施設へと“つなぐ”役割を担っていること
- ・虐待の発生予防・早期発見の場所でもあること

それらについて、現場での実践例を交えてお話しがありました。渡辺さんの「支援者がつないでいかなければ関わりは生まれない」、「主役は支援者ではなく利用者」という言葉に、みなさん強く頷いていました。これからひろばを立ち上げる方だけでなく、すでに運営している方にとっても、「なぜ地域で子育てを支える必要があるのか」という原点に立って、ひろばの位置づけや課題について再考できる内容でした。

■プログラム2 基調報告 テーマ「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

【講師】厚生労働省少子化対策企画室

赤塚孝行さん



現在の日本における少子化の背景や、政府が“すべての子育て家庭の支援”をすすめていくためにどのような戦略を策定しているか、数値結果や目標をもとに説明がありました。また、行政とNPOとの協働や次世代を育む循環としての展開など、今後の課題も含めてひろばに対して様々なことが求められていることが分かりました。

ここでも、ひろばは人や地域を“つなぐ”役割を担っていて、さらなる広がり期待されていることが繰り返し話されていました。

■プログラム3 パネルディスカッション テーマ「みんなでつくる子育て広場」

【コーディネーター】 渡辺顕一郎さん 日本福祉大学教授

【パネリスト】 加賀谷匡さん 秋田市福祉保健部児童家庭課

伊藤仟佐子さん NPO 法人

せんだいファミリーサポート・ネットワーク

加藤哲夫さん NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター

野口比呂美さん NPO 法人やまがた育児サークルランド

【アドバイザー】 赤塚孝行さん 厚生労働省少子化対策企画室



最初に、加賀谷さんから行政の立場から子育て支援事業の取り組みについて、伊藤さん、野口さんからは、NPO 法人として、ひろばを運営するに至った経緯と現状について、加藤さんからは子育て支援のルーツと、時代の変化にともなう課題についてお話がありました。

新しくひろばを立ち上げるにはどのようにするのか、自分たちのひろばを今後どのように継続していくのか、ひろばを作ったときの熱い思いを次の世代にどのように伝えていくのか、また活動を広げ継続するために行政とともにできることは何か、継続するためには、事業についての戦略、資金の調達、組織力の確立が必要であり、組織の中でそれらが共有されている必要があることなど、様々な立場から様々な意見や提言が寄せられました。

## ■プログラム4 分科会

〈分科会1〉 行政と子育て支援団体のよりよい協働関係のために

【コーディネーター】 奥山千鶴子さん NPO法人びーのびーの

【事例報告者】 向出耕次さん 山形県健康福祉部児童家庭課

阿部智衛子さん（「矢巾東児童館」） NPO法人矢巾ゆりかご

樋口葉子さん（「おひさまひろば」） NPO法人

しらかわ市民活動支援会

ひろば事業を運営していく上で団体がかかえる課題を、行政とどのように連携してよりよい子育て拠点にしていくのがいいのかをテーマに2ヵ所の事例発表がありました。

「課題は多いが行政と地域と団体との連携で解決できるものもある。」という阿部さん。



「市民交流の場を提供していたころからやっていたことが行政に評価されていた。」とふりかえる樋口さん。



参加者からも熱心な質問があり、行政側から山形県の向出さんが「子育て広場は、柔軟性・積極性のあるNPO、公平性・確実性の行政がお互いの違う個性を認めながら同じものをつくるあげるコラボレーション。行政側に市民の声を届け続けてください。」と支援者へエールを送りました。

最後に、奥山さんからは行政とNPOが協働するには、ともに見出す到着地点・目標が必要。共に夢を語り、一緒に作りあげていく喜びを共有し、共に成長しあえる関係になることが、大切との力強い言葉をいただきました。



### ●参加者からの感想

- ・個性の違う者同士が、色々な話し合いの中から、同じ方向性でよりよいものを見出していく、という話に深く共鳴しました。
- ・ひろばの目的をしっかり持ち、参加してくれる親子がお客様にならないように、お母さんたちのパワーを引き出していく努力をしていきたいと思いました。

〈分科会2〉 ひろばでのスタッフの役割について

【コーディネーター】 渡辺裕子さん（「子育てランドあ〜べ」）

NPO法人やまがた育児サークルランド

【事例報告者】 片桐晃子さん（「にこっと広場」） NPO法人ニーズ・ルーム

山田智子さん（札幌大谷大学短期大学部子育て支援センター

つどいの広場「んぐまーま」

NPO法人子育て応援かざぐるま

【アドバイザー】 高山静子さん（「城南区子どもプラザ」）

地域ぐるみの子育てをすすめるひだまりの会



「にこっと広場」の片桐さんは、スタッフが一緒に楽しむ余裕があること、スタッフ同士の連携や信頼関係の大切さを発表。「んぐまーま」の山田さんは、子育てはイベントではなく生活。親子と共にスタッフも育ちあうという視点を発表してくれました。

事例報告の後、6グループに分かれて活発な話し合いが行われました。



高山さんからは、20年後に感謝される支援を目指して、親自身が力をつけること、子どもが健やかに育つこと、地域全体が子育てしやすいまちになることがあげられた。さらに、「子どもは、「横に横にとふっくらふっくら育てるもの」という渡辺さんの好きな言葉で、和やかにしめくられました。

●参加者からの感想

- ・支援者でなく、親子が輝くことが大切であると再確認できました。
- ・少人数で話し合うことで、生の声を聞き、深い話ができ大変よかったです。

〈分科会3〉 わが町の子育てひろばを考える(ワークショップ)

【ファシリテーター】伊藤任佐子さん(仙台市子育てふれあいプラザ  
「のびすく仙台」)

NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク

【事例報告者】和田美紀さん(「子育てランドあ〜べ」)

NPO法人やまがた育児サークルランド

松本和子さん(青森市つどいの広場「さんぽぼ」)

子育て支援グループ「モモ」

【アドバイザー】野口比呂美さん NPO法人やまがた育児サークルランド



わが町の子育てひろばを考えるをテーマに、『子育てランドあ〜べ』、『青森市つどいの広場さんぽぼ』の事例報告がありました。ふたつのひろばの特色、悩み、今後の課題などの話に参加者は、一緒にうなずいたり、メモをとったりとても熱心に聴かれていました。



ワークショップでは、自分たちのひろばをつくろうと題して、2グループに分かれ話し合いを行いました。安心できるひろば、交流できるひろばをつくりたいという思いを中心に、ひとりひとりがひろばづくりに必要なもの、欲しいものについて意見を交換し、じぶんたちのひろばを完成させることができました。参加者全員夢を語り合う時間を共有でき、楽しい時間を過ごすことができました。

●参加者からの感想

- ・ 実際活動している人たちの話を聞いて、とても参考になりました。
- ・ 初めての形のワークショップでした。いろいろな意見を出す大切さを教えてもらいました。
- ・ 2つのグループに分かれて話し合いました。それぞれ特長あるひろばの形がうかびあがってきましたが、基本となる考えは両グループともしっかりおさえてありました。